

堂洞軍鑑記

全部一冊



仕合候と合戦ハ明辰之刻一天と相定メ御帰成され候、

其後隼人殿御預の佐藤紀伊守婦を長尾丸山に

其後身之度以預の佐友紀伊守婦を長尾丸山に

串差しにして捨置候得は、其夜加治田方より西村治郎

兵衛死骸を取返し則龍福寺で葬り申候此寺は

龍福寺と云えし別龍福寺と云ふ事也

龍福寺あり龍福寺と云ふ事也

龍福寺あり龍福寺と云ふ事也

龍福寺あり龍福寺と云ふ事也

龍福寺あり龍福寺と云ふ事也

龍福寺あり龍福寺と云ふ事也

龍福寺あり龍福寺と云ふ事也

翌日廿八日、信長公御出馬成され候

濃州加茂郡高畑村江見山に御陣を居へられ

濃州加茂郡高畑村江見山に御陣を居へられ

濃州加茂郡高畑村江見山に御陣を居へられ

濃州加茂郡高畑村江見山に御陣を居へられ

濃州加茂郡高畑村江見山に御陣を居へられ



そのよき時お其解由其意得奉る用は後紀存守何尤

少ゆは後抄身之履とてふも六天運に信長

書小字く八合住し辨て書し方辨中委何作也

され候 其後互の疑ひ発し 紀伊義兵八八重三條 といふ息女

の内巻人を勘解由方へ人質一遣し置のちのちハ勘解由

息女二も致され然べくと仰渡され候

心意と違はせしと殊に存し道勘解由旅末才地未

任在は花日苗梅存守一列の身もく高の道中ら

も在存らるしとて中らるしとて身之履するに信長

書小字くは城を治るも相守防戦を命じ又書